

市では、今後10年のまちづくりの指針である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」のビジョン編を策定しました。今回は、まちづくりの重要概念の一つ「ウェルネス(健康)」をテーマに、Jリーグチェアマン野々村芳和氏と秋元市長の対談を通して、まちを元気にする方法を考えます。

〔詳細〕対談は広報課へ(21)20006、まちづくり戦略ビジョンは政策企画部企画課へ(21)2192

Jリーグチェアマン

野々村芳和氏と語る

スポーツの力と札幌の未来



Jリーグチェアマン

ののむら よしかつ
野々村 芳和

静岡県出身。2000年にコンサドーレ札幌(当時)に選手として加入。2013年に株式会社コンサドーレの代表取締役社長に就任。2022年から公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)チェアマンを務める。

札幌初のプロチーム
市長 本日はお越しいただきありがとうございます。
野々村 お久しぶりです。最初にお会いしたのは、僕がコンサドーレの社長になった2013年ごろでしょうか？
市長 おそらくそのころですね。チェアマンが選手としても在籍されたコンサドーレは札幌にできた初めてのプロスポーツチームでした。週末はもちろん、平日も学校や仕事が終わった後などに試合を見られるようになり、札幌にもプロスポーツを生で観戦する新しい文化が生まれました。
野々村 最初はプロは遠い存在というイメージがあり、札幌の皆さんもどう関わっていたか分からなかったのではないのでしょうか。でも、コンサドーレとして26年が経ち、こんなに近い存在なんだと、楽しみ方も分かってきた方が増えているのかなと思います。



札幌市長

あきもと かつひろ
秋元 克広

まさき のりこ
進行 真砂 徳子
(フリーアナウンサー)

実施日 2022年10月26日
会場 図書・情報館(中央区北1西1市民交流プラザ内)
※対談時は十分に席を離しています

市長 地元のプロのチームができて、市民みんなで盛り上げるんだという気持ちはすごく強かったですね。私も当時子どもを連れて一緒に試合を見に行きましたよ。
野々村 いいですね(笑)。僕がコンサドーレの選手だった時、プロの選手とは何かを教えてくださいましたのは札幌のサポーターでした。ホームであれだけの人が熱く応援してくれると、もっと走れる、勝てるという気持ちになるんですよ。それを初めて札幌で実感しました。僕はサッカーは試合、スタジアム、サポーターによる作品だと思っています、サポーターの熱量はサッカーという作品に欠かさない存在だと思っています。
市長 プロの感覚を札幌で感じていただけたのだとすると、とてもうれしいです。選手もサポーターも良い影響を与え合って、まち全体が盛り上がるものなのだと感じますね。



地域健康づくりへの貢献
市長 チームを応援することで、勝敗などに一喜一憂しながら選手や他のサポーターと気持ち共有する、あの一体感は特別なものですよね。元気をもらったり楽しみや生きがいを感じたりして心の健康にもつながりますし、みんなが応援するエネルギーは地域の力になると思います。
野々村 高齢者施設に住む方たちがクラブチームを応援してみたら、生活に活気が生まれて元気になった例があるんじゃないかなと思います。
野々村 本当に働き過ぎは良くないですよ。皆さん休みましょ(笑)。

子どもの運動機会の確保
市長 運動習慣には子どもの頃からの経験が大切だと思いますが、札幌・北海道の課題として、子どもの体力が全国平均より低くなっていることもあるんですよ。
野々村 一つ思うのが、やっぱり冬は動きにくくなるじゃないですか。今はいろいろな技術が進化しているんで、それらを活用して冬にも運動ができる環境を整えることは大切ではないかと思えます。
市長 通年で運動できる環境

を充実させることは重要ですね。また、全国的に指導者不足や少子化などで部活動の維持が難しくなってきたり、子どもがスポーツをする機会が減ることが心配されています。機会を確保するためには、地域のクラブチームなどいかにつながるかが将来的に大切だと思います。
野々村 例えば、Jリーグのクラブチームが中心になって元選手などを指導者として派遣できるといいんじゃないですかね。国内にはJリーグのクラブチームだけでも60近く

あるので、ほぼ全国をカバーできると思うんです。
市長 プロの指導が受けられるなら子どもたちにとって貴重な経験になりますし、スポーツへの関心が高まるきっかけにもなりますね。
野々村 指導者になりたい、また、向いている元選手はたくさんいるはずですよ。選手は地域の人に応援されている実感があるので、地域に恩返ししたいと思っている。その働き口の一つになって、子どもたちの未来のためにもなるんじゃないかなと思いますよ。

「スポーツによるまちづくり」
 応援宣言をしていただきました。アスリートの皆さんは、食生活やメンタルケアなど健康につながるノウハウもお持ちだと思えるので、それを市民の健康増進につなげるお手伝いもしていただければと考えています。
野々村 皆さんが健康になることは経済の活性化にもつながると思うので、企業がやるべきこともたくさんあると思います。ちなみに、市長は運動していますか？
市長 最近、週末にウォーキ

です。他にも、札幌ドームができたことで、コンサートやイベントなどの、スポーツに限らない楽しみも広がった。勝敗を決めるだけじゃなく、僕たちにも分らない、いろいろなパワーがスポーツにはあるんだろうなあ。各クラブチームでも、地域の人の健康を支えるためにさまざまな活動を行っています。Jリーグとしては、パートナー企業と一緒にウォーキングのイベントなども開催していますよ。
市長 先日、コンサドレの三上ゼネラルマネジャーから

「スポーツによるまちづくり」応援宣言をしていただきました。アスリートの皆さんは、食生活やメンタルケアなど健康につながるノウハウもお持ちだと思えるので、それを市民の健康増進につなげるお手伝いもしていただければと考えています。
野々村 皆さんが健康になることは経済の活性化にもつながると思うので、企業がやるべきこともたくさんあると思います。ちなみに、市長は運動していますか？
市長 最近、週末にウォーキ

ングをしているのと、家で軽い体操をしていますね。健康づくりを勧める立場なので、率先して取り組みたいと思います(笑)。
野々村 意識が高いですね(笑)。実は、僕はチェアマンになってからはなかなか運動できていなくて、来年から少しやるうと思っています。
市長 運動習慣は大切ですよ。札幌では、2040年に65歳以上の方の人口の割合が約4割になる想定です。今回市が策定したビジョンでは、人生100年代といわれる中で、



▲Jリーグのパートナー企業と体操を行う野々村チェアマン(写真右)

▲「スポーツによるまちづくり」応援宣言をする北海道コンサドーレ札幌の三上大勝代表取締役ゼネラルマネジャーと秋元市長

2031年度までの10年間のまちづくりの基本的な指針

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン

「ビジョン編」を策定しました

市のまちづくりの計画体系の最上位に位置し、「ビジョン編」と「戦略編」の2部からなる「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」。このうち、目指すまちの姿やその実現に向けた基本目標を定める「ビジョン編」を、本年10月に策定しました。行政が取り組む施策を定める「戦略編」は、来年度中の策定を予定しています。

札幌市の「目指すべき都市像」と「まちづくりの重要概念」が決定！

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の
織りなす輝きが、
豊かな暮らしと新たな価値を創る、
持続可能な世界都市・さっぽろ



まちづくりの重要概念

ユニバーサル（共生）
誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会の実現

ウェルネス（健康）
誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現

スマート（快適・先端）
誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現

8つの分野で20項目の「まちづくりの基本目標」を設定

目指すべき都市像の実現に向けて、「子ども・若者」「生活・暮らし」「地域」「安全・安心」「経済」「スポーツ・文化」「環境」「都市空間」の8つの分野に、20の基本目標を定めました。市では今後それぞれの目標の達成に向けて、さまざまな事業に取り組んでいきます。

20の基本目標の一部を紹介！

- ・安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち
- ・誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち
- ・多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち
- ・四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができるまち
- ・世界に冠たる環境都市 など

目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成を目指し、市では市民が主役のまちづくりを進めていきます。まちづくり戦略ビジョンを共通の目標とし、子どもから大人までそれぞれが持つ力を発揮しながら、共にまちづくりを進めていきましょう。ビジョン編の詳細は区役所、市役所2階市政刊行物コーナーのほか、ホームページなどで、ぜひご覧ください。



市制100周年を迎え

次の100年の礎を築くために

札幌・北海道の
魅力を生かしていく

野々村 札幌・北海道という圧倒的な魅力がある地でコンサドーレの社長をやれたことは、すごくラッキーだったと思っています。豊かな自然や雪など、素晴らしいものが既にこれだけたくさんありますよね。みんな、それは分かっているんじゃないかな。

市長 国内だけでなく海外、特にアジアの方は憧れを持っていて、北海道の魅力的な雪を見に行きたいと言ってくれます。住んでいる私たちとしては、元々ある魅力を上手に発信して生かしていく必要があると改めて思いますね。

野々村 コンサドーレでは、タイのチャナティップ選手をはじめ、インドネシア、ベトナムなどの選手も活躍していました。彼らは現地ですごく有名な選手。そのこともあり、今もタイで一番有名なJ

リーグのチームはコンサドーレなんです。クラブチームを、札幌・北海道の魅力や情報を世界に発信するメディアとしても使ってもらえればと思います。

市長 言語は違ってもスポーツのルールは世界共通ですよ。特にサッカーは本当に多くの国や地域で行われている。今後も魅力を発信していきたい。大きな存在だと思います。

野々村 さらに北海道の魅力で言うと、今の日本の夏の環境で、スポーツ、特にサッカーをやるのは結構しんどくなってきた。北海道は暑くなってきているとはいえず、本州よりずっと環境は良いので、夏に全国から人が集まってスポーツの大会が開かれるという流れになっていくというんじゃないかと思っています。

市長 大学のチームなどの合宿は北海道でよく行われていますが、夏場の大会や試合を行うにも適していますよね。

例えば、夏は全国的にマラソンのオフシーズンですが、北海道なら真夏の8月でも開催できるということで北海道マラソンが定着しました。また、スポーツの大会は観光にもつながります。2019年に行われたラグビーのワールドカップの時の、まちの盛り上がりは忘れられないですね。

野々村 2002年のサッカーのワールドカップもすごかったですよね。みんなでいろいろな経験を積むことができるので、時々そうした大会があるのはいいいと思います。

野々村 今回の対談で、気持ちも元気で幸せに暮らす人をどれだけ増やせるかが、まち全体が元気になるために何より大切だと思います。自分がサッカーでそこに関われるのは幸せですし、一人でも多くの人が元気になれるお手伝いができればと思います。

市長 市民の皆さんが生涯健



野々村チェアマンの
サイン入りミニボールを
5人にプレゼント！



応募方法は、がき、ファクス、Eメール、ホームページ。「サイン入りミニボール希望」と記入の上、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の感想を記入し、12/20(火) (必着) までに広報課 (1ページ) へ。抽選



康で活躍し続けられる社会を実現するためには、気軽に運動を楽しめる機会や環境をつくるのが重要です。スポーツを一つのきっかけにして、多くの人に元気になってもらえるように、今後も取り組んでいきたいと思っています。